

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601		
科目名	危機管理基礎演習 I		
担当教員	瀧川 修吾		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 2		
講義室	1313	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H [理論的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） E1 学識と専門技能（10%） F1 探求と論拠（25%） F2 課題解決（10%） H1 論理的思考（10%） I1 理解・分析と読解（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） M1 総合的・応用的学修（5%）		
教員の実務経験	独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会委員として2015年4月より2018年3月まで勤務し、社会科学に関する基礎的かつ広範な知識の在り方について検討しました。 第1回目		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導します。3年次以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもって		

	います。本科目では、研究のテーマ決定や研究計画の検討からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーションによって表現することまでを行います。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) ・危機管理 ・研究テーマの構築 ・ゼミナールへの橋渡し	
授業の趣旨	■副題 政治権力と危機管理をテーマに、文献輪読とプレゼンテーションのやり方の基礎を学ぶ。 ■授業の目的 本演習では、危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 上記の①～⑧に加え、将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求することができる。 ・問題意識を持つことができる(第1回～第3回)。 ・問題点について文章で表現できる(第4回～第15回)。 ・問題点について自らの見解を持つことができる(第4回～第15回)。 ■科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すことができる。 ・政治学の基礎的な理論や用語の概念を説明することができる(第4回～第15回)。 ■成果を適切に表現することができる。 ・人に伝える表現ができる(第1回～第15回)。 ・自らの見解を伝える知識・技能が修得できる(第1回～第15回)。 ・コミュニケーションをとることができる(第1回～第15回)。 ・自分たちの成果を人に伝えることができる(第4回～第15回)。	
成績評価方法	■授業におけるプレゼンテーション 1回(50%)：適用ルーブリック E1, F1, F2, H1, I1, K1, K2, M1 (評価の観点) レジュメの内容(必要事項がすべて盛り込まれているか、分かりやすいレジュメとなっているか)、プレゼンテーションの論理構成(指示された内容について明解な論理構成に基づく報告となっているか)、プレゼンテーションの手法(時間が守られているか、聞き手に分かりやすい話し方か)などについて評価します。 (フィードバックの方法) 講義中にその都度、口頭で行います。 ■授業参加度 毎回(50%)：適用ルーブリック B1, C1, E1, F1, F2, H1, I1, K2, M1 (評価の観点) 他者の報告に対する自らの疑問・考察などを積極的に発言しているか、他者から示された意見や疑問に対し、自ら考えフィードバックを行っているかなど、演習授業の構築への参加について評価します。 (フィードバックの方法) 講義中にその都度、口頭で行います。	
履修条件	ひとつの本を、気心の知れた仲間と読むことを楽しもうという意欲のある人に履修して欲しいです。	
履修上の注意点	「備えあれば憂いなし」と言いますが、準備を万全にして講義に臨みましょう。講義中は積極的な発言が望ましいですが、「ソクラテスの産婆術」という言葉もあるように、発言者の意見をしっかり聴くことが大切です。独りでは思い付かなかった素晴らしい意見や、そうしたアイデアの元になるヒントが得られることでしょう。そして、講義後も、一連のやりとりについて冷静な振り返りを行うことで、きっとさらなる発見があることでしょう。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンスとグループカンファレンス ②授業概要 (ガイダンス) 授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。研究方法(C1・E1・F1・F2・H1・I1・M1)、プレゼンの手法(B1・H1・I1・K1・K2・M1)、議論の方法(B1・C1・E1・F1・F2・H1・K2・M1)について理解する。 (グループカンファレンス①) 活発な議論がしやすくなるように、受講生の親睦を深めるグループワーク(自己紹介・インタビュー・ディスカッションなど)を行い、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する(B1・C1・E1・F1・F2・

	H1・K2・M1)。社会科学に関する基礎的かつ広範な知識の在り方について検討した実務経験に基づき、皆さんのキャリア形成に役立つ実践的な話をします。 ③予習（180分） 自主創造の基礎1・2で学んだ内容を振り返り、シラバスを読み、危機管理基礎演習Ⅰの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのかを理解しておき、鋭意、テキストを読み進めておく。 ④復習（60分） 今回のグルーペンカウンターを振り返り、学んだこと次回に活かせるように整理しておく。
2	①授業テーマ グルーペンカウンター ②授業概要 （グルーペンカウンター②）活発な議論がしやすくなるように、受講生の親睦を深めるグループワーク（自己紹介・インタビュー・ディスカッションなど）を行い、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（180分） 鋭意、テキストを読み進めておく。特に自分が発表する箇所については文献を熟読し、発表の準備を進めておく。 ④復習（60分） 今回のグルーペンカウンターを振り返り、学んだこと次回に活かせるように整理しておく。
3	①授業テーマ グルーペンカウンター ②授業概要 （グルーペンカウンター③）活発な議論がしやすくなるように、受講生の親睦を深めるグループワーク（自己紹介・インタビュー・ディスカッションなど）を行い、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 前回のグルーペンカウンターを振り返るとともに、鋭意、テキストを読み進めておく。特に自分が発表する箇所については文献を熟読し、発表の準備を進めておく。 ④復習（120分） 今回のグルーペンカウンターを振り返り、学んだこと今後に活かせるように整理しておく。
4	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答） ②授業概要 （文献輪読①）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
5	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答） ②授業概要 （文献輪読②）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
6	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答）

	②授業概要 (文献輪読②) 発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ(客観)、かつ問題点や気付いた点について論じ(私見)、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する(B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1)。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習(120分) 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく(受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する)。 ④復習(120分) 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
7	①授業テーマ 文献輪読(個人プレゼン・質疑応答) ②授業概要 (文献輪読③) 発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ(客観)、かつ問題点や気付いた点について論じ(私見)、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する(B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1)。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習(120分) 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく(受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する)。 ④復習(120分) 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
8	①授業テーマ 文献輪読(個人プレゼン・質疑応答) ②授業概要 (文献輪読④) 発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ(客観)、かつ問題点や気付いた点について論じ(私見)、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する(B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1)。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習(120分) 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく(受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する)。 ④復習(120分) 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
9	①授業テーマ 文献輪読(個人プレゼン・質疑応答) ②授業概要 (文献輪読⑤) 発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ(客観)、かつ問題点や気付いた点について論じ(私見)、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する(B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1)。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習(120分) 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく(受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する)。 ④復習(120分) 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
10	①授業テーマ 文献輪読(個人プレゼン・質疑応答) ②授業概要 (文献輪読⑥) 発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ(客観)、かつ問題点や気付いた点について論じ(私見)、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する(B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1)。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習(120分) 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく(受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する)。 ④復習(120分) 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。

11	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答） ②授業概要 （文献輪読⑦）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
12	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答） ②授業概要 （文献輪読⑧）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
13	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答） ②授業概要 （文献輪読⑨）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
14	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答） ②授業概要 （文献輪読⑩）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを次回に活かせるように整理しておく。
15	①授業テーマ 文献輪読（個人プレゼン・質疑応答）と危機管理基礎演習Ⅰの総括 ②授業概要 （文献輪読⑪）発表者は、自分の担当箇所の概要をまとめ（客観）、かつ問題点や気付いた点について論じ（私見）、受講者と質疑応答を行い、学識・専門技能を修得しつつ理論的思考力・批判的思考力を中心に、探求力・課題解決力や理解力・分析力、表現力・対話力を修得する（B1・C1・E1・F1・F2・H1・K1・K2・M1）。以上に掲げた到達目標を実践できるようになる。 （総括）講義全体を振り返るとともに、受講者全員にコメントしてもらいます。 ③予習（120分） 鋭意、テキストを読み終え、自分が発表する箇所について文献を熟読し、発表の準備

	を進めておく（受講者は全員、発表者同様に文献を熟読して参加する）。 ④復習（120分） 今回の文献輪読を振り返り、学んだことを今後に活かせるように整理しておく。
関連科目	「自主創造の基礎 1・2（RMGT1215・RMGT1216）」・「危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）」・「ゼミナールⅠ～Ⅳ（RMGT4601・RMGT4602・RMGT4603・RMGT4604）」・「危機管理特殊研究 1～4（RMGT4611・RMGT4612・RMGT4613・RMGT4614）」と関連します。
教科書	ジョージ・オーウェル『動物農場』／George Orwell(1944)Animal Farm：英語版でも、どの出版社の和訳でも構いません。
参考書・参考URL	適宜、指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日 3 限 それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%、パブリックセキュリティ25%、グローバルセキュリティ25%、情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学30%、法学70%

